

いじめなくす授業を実践

金谷小 鳴門教育大のプログラムで

福知山市猪野々の金谷小学校(加藤剛校長)は、9日から14日までの通算4日間にわたり、いじめや不登校といった問題を未然に防ぐ「学校予防教育」の授業をしている。自分の良いところを認識し、他人を認め、いじめなどをなくすという教育プログラムに沿って、児童が学んでいる。

学校予防教育は、徳島県鳴門市にある鳴門教育大学予防教育科学センターの山崎勝之所長が中心になって始めたもので、全国で実践し、研究を進めている。金谷小は、児童らの自己肯定感を高めるこ



1人ずつ自分の良いところを発表した

とを教育研究テーマとして長年取り組んでいることから、府の「いじめなくす」のコミュニケーション」を対象に取り入れ

ニケーション事業」の一環として、3年生以上の児童(4年生は0

た。自分が楽しいと思うことや友だちの良さを見つけ、自分をかけがえない存在と認める自己信頼心(自信)の育成などをめざす内容。教育科学センターから教材の提供を受け、先生らがプログラムに沿って授業に取り組み、10日の第2回は山崎所長と同大学の内田香奈子准教授が指

導に訪れた。児童18人が4、5人ずつ4グループに分かれ、「自己信頼心の育成」のテーマで学んだ。パソコンやテレビを使い、アニメーションと内容を連動させて進行。自信がもてない動物を元気づけることで、自分も自信を高めたり、考えを発表し合うことで自分を認めてもらうことと相手を理

解することを体験していった。初めて予防教育の授業をしたという永谷嘉浩教諭は「子どもたち自身が自分の良いところに気づくことができ、良い学びになったと思います」と手ごたえを感じていた。

このあと、教員らは事後研修を開いて山崎所長らから指導のコツなどを聞いた。